

東栄病院辞令交付式でのあいさつ

みなさん、こんにちは。

本日から、東栄病院は今までの指定管理者制度による公設民営から、公設公営への運営に代わることとなり、只今、東栄町職員としての辞令を交付させていただきました。退職された方も一部はお見えになりましたが、ほとんどの方に引き続きお力をお借りすることとなり、こうしてスタートを切ることができました。心より感謝申し上げます。

私は以前、役場職員でありましたが、一度も病院での勤務の経験はありません。しかしながら、病院が出身地の三輪地区にありましたが、若いころは病院の催し物などに参加させていただいたりしていたこともあり、大変身近に感じていたこともありました。そして、特に公設民営化になった医療法人せせらぎ会の東栄病院とは、企画課長、住民課長として、その後は副町長として理事の立場で、関わりを持たせていただいております。

東栄町も人口の減少など刻々と状況は変わってまいりました。このように時代は絶えず動いています。世間も動いています。したがって、個人である人も動かなければならないわけであります。

私も町長に就任させていただき3年が経ち、「石の上にも3年」のたとえのごとく、皆様のご協力により、東栄町地域包括ケア推進計画（第8期高齢者福祉計画）と東栄町医療センター（仮称）保健福祉センター（仮称）等施設整備の基本構想・基本計画を策定でき、やっと目標に向かって一歩踏み出すことができました。

東栄町というところは、皆さんもご承知のように政権が代わるたびに、「すべてが止まってしまい、今までの計画もなくなってしまい、信用できない」との言葉を言われたことを今までの役場経験からも思い出します。したがって、今回策定いただいた計画書を私の残された任期1年を使って、住民の皆さんをはじめ、関係する方々に理解いただけるよう、特に町民には地区懇談会をはじめ、至る所で説明をさ

させていただきます。そして、平成32年10月の医療センター等開所の目標に向かって、最大限の努力をしていく所存です。そして、この目標が達成できなければ我々職員だけでなく、患者、町民の期待を裏切ることとなり、私も町長としての責任を負わなければならないと覚悟を決めております。現場で働いてみえる職員の皆さんも信じていただきたいと思います。そして、新しい医療施設に向けての体制づくりと人材育成の準備に本格的に取り組むことに理解と協力をお願いするところであります。

リーダーとしてつとめていただく役割として、教育者としての役割があります。教育とはお互いの人間関係づくりであり、信頼と尊敬の関係が得られるようにすることが大切であります。どうか、このような事をしっかりと心に留めて、リーダーとして、職場づくりをお願いします。

成長できない組織は、個人としても、それぞれの部署においても共通して、考えや行動が内向きで前例や規則にしばられ、言い訳をし、責任を取らず、先送りする傾向にあると言われております。

ここ数年、病院運営をはじめ、町民からも厳しい視線が注がれております。

強い組織は同じ目標に向かって、みんなで力を合わせ支え合って進むと言われております。「誰かがやってくれるだろう」などの考えは捨て、自分たちならこうする、こうあるべきなど、改善すべき点など、みんなで考えていただきたいと思います。

東栄町にとって、将来を左右する大変重要な施策であります。歩みを止めることなく、目標が達成できるよう最大限、力を尽くす所存であります。どうか、病院職員の皆さんにも、ご理解の上でお力添えいただきますよう、お願いし挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしく申し上げます。

平成30年4月2日

東栄町長 村上孝治